

日本トルクメニスタン・フォーラムでのベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領スピーチ

尊敬する麻生大臣、フォーラム参加者、友人の皆様

トルクメニスタン国民と政府を代表して皆様にご挨拶申し上げるとともに、フォーラムの主催者であるロシア NIS 貿易会ならびに日本トルクメニスタン経済委員会に対し、皆様とお会いする機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

ホスピタリティ溢れる貴国の訪問は私にとって2度目ですが、今回の会合は両国関係の発展に特別な意義を持っています。トルクメニスタンと日本は、世界情勢において重要な役割を果たす国であります。この意味で、両国は常に首脳レベルの対話を行い、政治だけでなく貿易、経済、人的交流などの最重要課題に関する互いの立場を確認する必要がありますと我々は考えています。

今回の訪問中に私は、トルクメニスタンでも非常に尊敬されている天皇陛下に大変温かい雰囲気の中で謁見し、安倍首相とはきわめて有意義な会見を行うことができました。その結果、共同声明ならびに技術協力、経済、医療、ガスのハイテク加工に関する文書に調印いたしました。今年5月に駐日トルクメニスタン大使館が開設されたことは、互恵協力を拡大したいという両国の意向を裏付けています。

私の訪日直前にトルクメニスタンではトルクメニスタン・日本ビジネスフォーラムが開催され、その中で両国の経済協力の現状と展望について幅広い意見交換が行われ、特に燃料エネルギー、工業、貿易、通信、ハイテク分野における連携の新たな形と方法が示されました。

尊敬する麻生大臣、フォーラム参加者、友人の皆様

我が国の対外および国内政策について手短にお話したいと思えます。

トルクメニスタンの現在の政策の本質を端的に表すと、国の近代化政策と名付けることができます。トルクメニスタンは初めから平和と協力の路線を採っていましたが、それは国内の発展にとって理想的な条件であるからだけではありません。現実に即した形で、世界的、かつ客観的に必要とされているからです。

我が国の経済発展はこれまでとは全く違うレベルになっています。国家にも国内の実業界にも質的に新しい余力があります。

西側の多くのアナリストが次のように考えていると申し上げても、もはや目新しいことではないでしょう。現在中央アジアは政治、エネルギー産業および工業の中心としての力をつけてきています。豊かなエネルギー資源を持ち、交通路の交わる特有の地理的位置にあるトルクメニスタンは、中央アジアの最重要国の一つであり、中央アジアの「玄関」です。

トルクメニスタンの主要経済指標はすべて十分高いレベルにあります。経済成長率は着実に毎年 11% 台を保っています。我が国は経済改革を実施する中でかなりの進歩を達成しました。

ここ数年間、トルクメニスタンでは国庫歳入が大きく伸びており、貿易高も増え、最近 10 年間の貿易高の年平均成長率もかなり高い水準で推移しています。

豊かな資源によってトルクメニスタンの工業部門では燃料・エネルギー産業の発展が可能となりました。我々が特に力を入れているのは、発電、ガス採掘、石油採掘および石油加工の分野です。

我が国が高く評価している日本の最新技術が、トルクメニスタンの産業の発展および多角化に大きく貢献したことを指摘したいと思います。現在日本の企業は様々な産業分野でトルクメニスタンの積極的なパートナーとなっています。

例えば、日本企業は随伴ガスからの石油合成、地層水の浄化および処理の問題で国営コンツェルン「トルクメンネフチ」に積極的に協力しており、国営コンツェルン「トルクメンガス」とは天然ガスの高度加工および大規模なガス化学産業の創成に関連するいくつかのプロジェクトで連携しています。セイジ市におけるポリエチレン製造工場建設プロジェクトに関しても提案を受けています。

経済の各分野への長期的な投資は経済発展が成功するための重要な要素であり、協力の枠組みが今後投資分野においても拡大していくことを確信しています。

近年、我々両国間の貿易・経済関係は目覚ましい進歩を遂げています。

しかし、2012 年のトルクメニスタンと日本との貿易高が前年と比べて約 9 倍に増大したにも関わらず、日本はトルクメニスタンの輸入総額中 9 位、輸出総額中 47 位を占めるに過ぎません。つまり両国には貿易経済分野での連携の効率を高めるための大き

な将来性があるということです。

2013年6月1日現在、トルクメニスタンには日本企業が参加する投資プロジェクトが26件登録されており、その総額は7億8,100万ドル、910億円を超えています。

投資政策全般について申し上げますと、近年外国投資の割合が大きく増大しました。

2008～2012年のトルクメニスタン経済への投資総額は約600億ドルでした。2012年だけでも固定資本への投資額は2011年の1.3倍以上でした。

我が国は経済政策において借款や融資よりも直接投資を志向しております。なぜなら、直接投資は、第一に国内市場における追加的な生産需要を生み、それが財政および経済状況の安定化を促すから、そして、第二に對外債務の増大につながらないからです。さらに補足すると、トルクメニスタンには国家としての對外債務はなく、良好かつ安定した財政システムがあります。

2012年の投資総額のうち約70%が製造業分野への投資でした。その大部分は工業、交通および通信の発展に投資されました。

トルクメニスタン経済への投資の魅力を高めるため、しかるべきインフラの整備が進み、投資家の権利保護に関する国際的な要求を考慮した投資プロセスの法的基盤が順次改善されています。

この法的基盤は、外国人投資家、外国投資の入った企業の活動の法的保護の具体的な保証を規定しています。以下に挙げる保証です。

ビザ制度およびトルクメニスタン国内滞在の確保；

収入および利益のトルクメニスタン国内での使用および国外への送金；

外国人投資家および外国投資の入った企業の権利および義務の第三者への移転；

知的所有権保護；

情報へのアクセス；

投資活動の中止に伴う外国投資の返還、および強制的な財産有償没収に際しての補償。

カスピ海沿岸の国立観光地区「アヴァザ」内で活動する外国人投資家は、平等な条件で税金、関税その他多くの優遇措置を受けることができます。

トルクメニスタンでは最新の設備を備えた輸出志向型繊維産業が形成されています。

活発な投資活動は建設産業の発展を促進します。我々は建設資材製造分野での大規模な工場建設に関心を持っています。我が国にはそのためのあらゆる可能性があります。

トルクメニスタンでは、積極的で精力的な企業家・実業家層が形成され、国の経済発展の原動力として確実に力を発揮するようになってきました。民間セクターがトルクメニスタンの GDP に占める割合は現在約 40%ですが、2020 年には 70%まで増えるでしょう。しかし国の経済の中で民間企業が活躍することができる範囲はすでに達成された水準よりずっと幅広いものです。トルクメニスタンでは、民間企業の優遇および奨励措置、民間企業活動の可能性の拡大を規定した国家中小企業支援法が制定されています。明確な民間企業振興コンセプトが策定されています。

企業活動を支援する総合的な施策が国の経済システム全体の抜本的な改革を要求することもありえます。

近い将来、我が国で中小企業だけでなく大企業についても語るようになることを確信しています。

今日すでに我が国の民間の建設会社に大きなプロジェクトを任せています。この 8 月、ほんの 1 ヶ月前のことですが、アシハバード市開発の第 13 期のプレゼンテーションが行われました。内容は首都の行政、ビジネスおよび文化の新しい中心地の形成です。このプレゼンの最大の特徴は、大規模な建設プロジェクトの実施がトルクメニスタン工業者企業家同盟のメンバーである民間の建設会社に委託されているということです。この同盟はつい最近結成されたものですが、すでに 4,500 人以上の民間企業代表を会員に持つ公共団体であり、我が国の進歩的な経済改革の実現への会員の積極的参加に重要な役割を果たしています。

あらゆるプロジェクトにおいて、最新のイノベーションおよび技術開発、ノウハウ、専門家の職業訓練を含めた国際標準との適合が最優先であるということを再度強調したいと思います。

日本企業の経済活動、生産、科学技術および経営活動の経験、日本企業の巨大な力と経験に我々は大変関心を持っており、有益であると考えています。

現在我々が最優先事項と考えているのは経済の革新的な発展です。なぜならどの国・政府にとっても最重要課題は国民の生活の質の向上だからです。熟練した専門家、そして、良好な環境で生活し、肉体的・精神的に成熟した人々なしに発展の課題を解決することは非現実的だからです。ですからトルクメニスタン国民の社会的な生活条件の改善は我が国の戦略的課題です。

トルクメニスタンは豊富な天然資源に恵まれており、そのため国家は国民を国外の景気に依存させないですむということを指摘したいと思います。我々は国内政策において国民の福祉を優先し続けるつもりです。トルクメニスタンは現在、国民にガス、電気、水を無料で提供している唯一の国家です。その他にも世界に類を見ない多くの特典や特権があります。

市場経済への道をしっかり進みながらも、我が国は主要な原料資源および国民経済の最重要分野の厳しい国家管理を否定しません。

我が国では教育システムの改革が成功裏に実施されています。その究極の目的はこの分野における世界標準の達成です。トルクメニスタンの中等教育学校は今年から 12 年制になりました。

国内外の経験にもとづいて新しいカリキュラムが策定されました。例えば、今学年から我が国の中等教育学校では、基礎経済学、情報通信およびイノベーション技術、シミュレーションおよびグラフィックス、エコロジー、トルクメニスタンの文化遺産、世界の文化、行動規範（倫理）などの新しい科目を教えています。現在、新しい校舎はコンピュータ教室がインターネット接続されていなかったり、インタラクティブ授業ができない場合、使用許可が下りません。

我々は外国で高等教育を受ける可能性を大幅に広げました。近い将来我が国の若者は日本の教育機関で教育を受けることができるようになります。日本の若者も我が国の大学で学ぶことができるようになります。

筑波大学とドブレトマメド・アザジ記念トルクメニスタン国立外国語大学の学術交流協力協定の調印が両国関係の強化に重要な役割を果たすことを確信しています。

国民の医療システムの改革についても触れないわけにはいきません。この数年の間に我が国には新しいクリニック、総合診療所、専門別医療センターや保養所の一大ネットワークが出現しました。ここにも、最新の医療機器や研究開発分野に従事する日本企業にとって大きな参入の余地があります。

日本政府が医療機器輸出および医療サービス提供の分野における国際協力に大きな関心を持っていることを我々は知っています。ここにも将来性のある協力の場を見つけることができるでしょう。

トルクメニスタンと日本は豊かな観光資源を持っており、この分野でも協力拡大の大きな可能性があります。トルクメニスタンは、明日開幕する「JATA 旅博 2013」に初めて参加します。私と代表団メンバーは明日この展示会を見学する予定です。我が国の展示がトルクメニスタンの国とその特色、大変興味深い観光ルートをご紹介できることを確信しています。我が国は日本からの観光客が増えることを期待しています。

日本からの観光客は、スケールの大きな史跡や自然、手織りの絨毯や「天馬」と呼ばれるアハルテケ種の馬などトルクメニスタンの素晴らしい特色を知ることができるでしょう。

今日、代表団のメンバーは東京競馬場を訪問しました。そしてそこに日本で「黄金の馬」と呼ばれているアハルテケ種の馬の銅像があることを知りました。

ご存知のように、2017年にはトルクメニスタンで第5回アジア・インドア・マーシャルアーツゲームズが開かれます。これに関連してスポーツ分野での協力の良好な可能性があります。

この場をお借りして、東京が2020年のオリンピック開催地に選ばれたことを心からお祝い申し上げます。

最後に、トルクメニスタンと日本の間には時代の精神に合致した協力と平等な互惠パートナーシップの効果的なモデルが形成されているということを申し上げたいと思います。本日の会議が、質的に新しい段階に入りつつある本格的な協力への双方の意志を確認するものになることを願っています。我々が本日調印する文書のリストは、燃料・エネルギー、工業、経済、財政、学術、教育その他の分野に渡るかなりの分量ですが、両国にはあらゆる分野における確実な互惠協力のための素晴らしい可能性があること

を証明するものです。

尊敬する紳士淑女、フォーラム参加者の皆様

皆様のお仕事でのご成功を祈念するとともにご清聴御礼申し上げます。